

2022 年度外部授業評価

改善案

【卒業生】

A 初年次

初年次教育課程連絡委員会 委員長 水野真由美・教務部教務課

内部質保証の推進として実施している外部授業評価について、初年次教育課程では、ここ数年間の実績に基づいて、【卒業生アンケート分析】【これまでの改善方策】【今後の課題】を報告する。教育課程については、専門教育領域への意見が多く、初年次教育課程については、これまでの要望と2022年度の要望を整理している。

【アンケート分析】《卒業生からの要望》 「⇒」は「教授している科目」又は「教授の可能性を持つ科目」を示す。(有益だった内容は記述しない。)

- ・第2言語の履修 ⇒ 「語学」 ・プレゼンの仕方よりも資料作りや話し方 ⇒ 「学修基礎」、「情報基礎」、「服飾造形基礎」
- ・コミュニケーション能力の育成 ⇒ 「社会人基礎」
- ・パソコンスキルの向上 ⇒ 「情報基礎」
- ・ドローイング授業の成果 ⇒ 「ドローイング」
- ・服飾造形基礎は2年間必修でも良いのでは ⇒ 「服飾造形基礎」
- ・フィールドリサーチのまとめ方に疑問 ⇒ 「フィールドリサーチ」
- ・色彩演習の授業改善（生地で学びたい）生地の授業が少ない
⇒ 「色彩演習」「アパレル素材論」「衣服材料学」
- ・ファッション販売論では、ロールプレーイングを取り込んでほしかった
⇒ 「ファッション販売論」
- ・SNS系授業の設定 ・WEBマーケティングについて ⇒ 「学修基礎」「情報演習」
- ・ファッション画の手描きが役立つ ⇒ 「ファッション画」

【これまでの改善方策（要望に応えた事項）】

- ・SNS系授業の設定 ・WEBマーケティングについて ⇒ 令和3年度から「学修基礎」の内容に情報リテラシーの内容を取り入れた。
- ・第2言語の履修希望 ⇒ 1年次の外国語必修科目の他に選択科目として、外国語（中国語・フランス語）を履修する学生が増加した。令和元年より「語学」を自由科目から教養科目の選択科目とし、2年次以降の学習（他言語）の機会を拡げた。
- ・語学内容の改善 ⇒ 令和4年度から英語テキストの内容を本学の専門性と学生の実態に応じた内容に変更した。

【今後の課題】

- ・有益な授業であったという意見も多数ある。このことも担当者に伝えて行きたい。
- ・卒業生からの要望では、科目を実際に履修した経験者として内容変更や追加希望も挙げている。要望の挙げられている科目については、授業科目担当者に確実に伝え、改めて「外部評価アンケート回答」に目を通し、期待内容について把握させ、授業改善の参考としてもらう。

B 専門課程

① モードクリエーションコース

コース主任 北折 貴子

2年次：*授業科目名の内容として不足していて具体的に欲しかった内容や授業内容についての

意見：・授業制作費に対しての上代付け、素材や生地名についてなどを入れたプレゼンテーション資料を作らせ、制作後に販売価格設定を行っているが、より実践的な学びをする上で先に販売価格を設定し、生地選び・副資材選びを行うことも検討していきたい。

・ファッション・フィールド・リサーチ：自分が働く場合や出店するなら…などをまとめて提出したり、マップを作ったりするとさらにリサーチスキルが身につくのではないかと1年次の科目ではあるが、2年次モードクリエーションでも継続できると考える。現在、授業の制作アイテムごとにマーケティングリサーチを行わせているが、価格帯や素材、アイテムの流行にとどまらず、店舗の場所、客層まで幅を広げて、プレゼンテーション資料に盛り込むよう変えていく。

・ミシンのメンテナンスや縫製の仕上がり方、ミシンの調整などの知識→1年次の服飾造形基礎でミシンの使い方、調整などを教えていますがまだ不足のため、2年次専門になってから、縫製の仕上がり意識させるミシン調整の指導を今後授業内での実施を検討する。

*今後必要と思われる授業名と内容：

・衣服材料学：衣服材料学の教員との話し合いを検討し、2年次モードクリエーションの授業で制作するワンピースなどのアイテムを素材別にサンプル製作することで、自身の制作する素材決めの参考にする。

「実際にはモノを売って商売にしなければいけない。学生の時から」について

「着てほしい人（ターゲットとなる人）がそれを着たい（身に付けたい）という場合、購入、目的に対して、デザイン、素材、価格について適正か考えさせる。コストについても下代、上代を想定し、販売価格と利益の相関関係を理解させる。価格を下げる場合の生地、付属、縫製、流通等の何を見直すべきなのかもSDGsの視点から自分の考えを持たせる。

3・4年次：マーケティングリサーチを通し、分析力や洞察力を鍛えるとともに、他者の調査結果で個人では気がつかなかった流行や市場が何を求めているか、考えることができる。更に調査結果を全員でマップにまとめるなどし、意見交換を行う時間を設け、自分の調べたブランドの位置分類、自分の興味がある位置を知ることができると共に、社会に出たら必要不可欠となるコミュニケーション能力も身につくと考える。意識的に素材に関する知識を増やすように、来年度から市場調査などに取り入れたい。

また意欲のある3,4年生を対象としてデザイナー養成特別強化ゼミ（無単位の自主ゼミ）が設置されている。このゼミはコース内のクラスや科目という枠を超えた学びを行うことができると考えている。ゼミでは卒業生デザイナーの協力を得て、オリジナルデザイン発想から自分のブランド立ち上げまでを一貫して学び、制作した物を外部で成果発表や販売することを企画している。このことにより自己満足でない社会での成果による外部評価を受けることができ、今後のデザイナーとしてブランド立ち上げに向けて実践的な教育を目指していく予定である。またコンテストに向けてデザイン画表現を研究し、意欲的に外部コンテストにも参加していく予定です。

② インダストリアルパターンコース

コース主任 住野 雅子

「感性産業 CAD I II」では、応用的な衿・袖・身頃のパターンメイキングの理解を目指しているが、さらに応用力を付け、理解を深めるために改善案として3次元着装シミュレーションを使い、3D デジタルの導入により3D フィッティングを可能とし、理解確認に役立てる。

「CAD& 3D 演習 I II」では画面上での理解だけでなく実物で確認して行く必要性を感じた、そこで改善として、パターンメイキング・ドレーピングを強化し、授業の中で多くの時間を使ってPC と実物双方を確認することで理解を深める。

グループにおける研究をすることによって、各自持ち寄ったパターン設計やコンセプトを読解し、コミュニケーション能力と相互理解を付ける。

今までベストに限って行っていたアイテムを自由にして、多種多様なパターンを学修することが可能となる。またドレーピングを取り入れ、シーチングだけではなく実際の布で重力を感じ、布とパターンの在り方で平面との違いを実体験させることで、デジタルで行う着装シミュレーションとの比較研究にも役立つと考えられる。

上記の内容から、今後は就職だけでなく令和4年度開校した大学院「3D デジタルモデリストコース」への進学もスキルアップとして目指すこととしていく。

今後は教育成果を踏まえての大学としての検討に従って、「CAD& 3D 演習 I II」の授業内容をさらに検討を行う。

③ テキスタイルデザインコース

コース主任 田口雅子

今回、テキスタイル商社にて営業（アパレルメーカーへの生地販売）、アパレル・テキスタイル事業で活躍をされている 2 名から意見を頂きました。他コースの卒業生の方のご意見も参考に今後の授業に反映していきたいと思えます。

- ・Photoshop、illustrator を中心とする PC のスキルを得られるようにする
- ・カットソー、ニットに特化した授業の充実を図る
- ・ロールプレイングやプレゼンテーションなど他者に説明する方法を身につける（プレゼン用の資料作り、話し方）
- ・業界で働く人の話を聞く機会を設けることで職種や働き方をイメージできるようにする

コースでは学外授業見学として、産地での生産現場を見学する機会や、ジャパングリエーション、生地のテストセンターへの見学などを継続して実施しています。実際の現場を見学する事でどのような仕事があるか、生地と服との関わり方を学んでいます。テキスタイルに関わる職種は幅が広く、就職活動の際も迷いが生じやすくあります。現在、実務経験のある講師やテキスタイル業界で活躍されている現役の方を講師に授業をしていただき、リアルな現場の状況を話していただくと同時に、実践的な内容を取り入れていただくことで、学生が仕事の内容と働き方をイメージする機会と考えています。今後はさらに就職に対する理解の幅を広げるため、卒業生のお力を頂き、学生へのメッセージを頂けないかと企画しています。また、今後は外部評価員や外部講師をお招きし、実践的な話を伺う機会を増やしていきたいと考えています。

PC スキルについて、デザインのためのスキルだけではなく、ペーパーレス化やリモートワーク等でデジタルが必須とのご意見を頂きました。PC への苦手意識がある学生がいるのも現状です。課題制作のデザイン考案やまとめなど 2 年次から PC を使用し、3 年次での「画像表現演習」ではデザイナーとして活躍している講師に授業をしていただき、illustrator、Photoshop を使用したデザイン考案などを指導していただいています。また、各授業や産学連携の中でプレゼンテーションの機会を増やし、PowerPoint を使用して行っています。「ニッティング」ではシミュレーションを行っています。このように PC を使用する機会を増やし、より実践に近づけていきたいと考えています。

その他、役に立った授業の中に「アパレル素材論」についてのご意見が多くありました。この授業は服の素材である布に関する知識を学ぶ科目です。専門用語などが多く、学生にとって興味を持つことが難しい傾向があります。いかに興味を持ってもらえるかが課題になりますが、授業時に話題になっている製品や生地について話題に取り入れる、実際の服に使用されている生地を触り興味を持ってもらうなど、身近に感じてもらう工夫を取り入れていきたいと思えます。

④ ファッションプロダクトデザインコース

コース主任 肉丸美香子

ファッション雑貨の商品企画、ワークショップの企画開発、オンラインショップの管理運営・Eコマース営業などの領域で活躍している卒業生から貴重な意見を聞くことができた。

<卒業生からの意見>

- ・産学連携プロジェクトは学生時代に企業とのコラボで企画から販売までできることは他ではできない経験であった。プレゼンでは、厳しく講評をいただけることは、社会の経験の一つとしてとてもためになった。プレゼンの向上に繋がり、仕事でも問題点を考えるきっかけとなった。
- ・Webマーケティングに関する授業について必要と思われる。
- ・後輩の縫製のスキルが経験不足のように感じる。簡単な、縫製とミシンのセットが問題なくできるようになるのは必要だと思う。ミシンのメンテナンス、ミシンの調整の知識など、身につけられるようにすると良いと思う。
- ・現在社会で活躍している卒業生からの話を聞ける機会をより充実させ、学びと実社会の繋がりを理解できるようなことが必要と思われる。

<今後に向けての改善案>

今年度も商品開発・製品化・商品販売などの各領域に携わる専門家との交流の場をより充実させるように心がけている。更に連携している企業に向けての緊張感あふれるプレゼンテーションの体験は、実社会において、その重要性をより深く理解出来るのではないかと考えられる。説得力を持ったものとする為の研究に基づく資料の充実、デザイン案を正確に伝えるデザイン画、試作モデルの完成度のアップなどいずれもプレゼンには欠くことのできない力である。特に実社会に通用する人材の育成を目指し、協調性・問題解決に対する知識の必要性など互いに意識し、共有することができるようにグループワークをおこなっている。今後もこの産学連携プロジェクトについては続けていこうと考えている。

縫製のスキルに関しては、実際研究室でも、話し合っていたところである。特に、特殊ミシン（腕ミシン、平ミシン）について、ステップアップが感じられるように、さらに授業後のサポートを考えていきたいと思う。

社会のニーズとは、どのような内容や事柄なのか関心を持てるようにする。自由な発想を大切にし、一人一人の個性に基づくものづくりを追求していけるような人材の育成を目指したいと考えている。

卒業生外部評価において抽出されたポイントを整理すると以下の項目が重視される。それら指摘ポイントについて全体観を含めた現状と改善策を以下にまとめている。

◆貴重な意見と重要な指摘ポイント

- ①配属当初は店頭配属のため授業を通じた接客ロープレのスキルが重要
- ②イラストレーター、フォトショップ、等を活用した企画書作りが重要
- ③企業との連携型授業を通じて得た能力や経験が役に立っている
- ④トレンドフローを理解する授業の必要性を感じた
- ⑤外部の実務者を生かした授業運営の必要性
- ⑥アパレル業界のサステイナブルについての学習の必要性を感じる
- ⑦プレゼン能力を醸成する授業の必要性
- ⑧実践的コミュニケーション能力の醸成

◆必要な対策へのアプローチ

上記項目については、本コースでは単科大学として学生達の求める専門性の高い就業観を勘案した実践的な能力の醸成を目指しており、本コースでは既に改善・改革を進めている部分も存在する。結果的に本アンケート指摘項目は、それらとの内容の重複部分が多く、その意味において、コースの目指している方向性に整合性がある事が再認識できるものである。そのため上記項目について既対応出来ている内容も多く、今後はその指摘内容について更に改善・強化を図っていききたい。一方で、現状で欠落要素として認識できる内容としては、②と⑧となる。②については、科目構成上の対応は出来ているものの、実践的な場面を想定した上級スキルへの対応がやや欠けており、今後、その対策として「産学連携プロジェクト」「プレゼミ」を通じて早期に改善を図っていききたい。また⑧については、本コースの構成科目全体でアクティブラーニングの強化を現在進めており、その過程を経て、⑦と合わせて対策強化が図れるものとする。今後は、その授業効果に注視していききたい。

総体的に高度な専門的能力の醸成や時代変化に即応性のある授業内容への変革を期待する意見が多く、加えてファッションビジネス全体を通じた現場感のある授業運営の必要性を感じさせる意見が多かった。これらの貴重な意見を重視し、今後速やかに効果的な改善を行い、対策を講じていききたい。また本コースの学習エリアは、ファッションビジネスであり、元来変化のスピードが早い分野である。従って実市場の変化に注視しながら、必要性和優先性、そして教育指針と教育効果を鑑みながら遅滞なく改善をはかっていききたい。

⑥ ファッションビジネス・流通イノベーションコース コース主任 五月女由紀子

1. 大学の授業について

全体の意見から、WEB マーケティングや SNS の実践、EC 販売の実践などが挙がっており、これはイノベーションコース専門であることから、今後はさらに強化する。2年プレゼミ内での SNS の授業は、Instagram に加えて TikTok も時代の流れに応じて開始する予定である。チームに分かれて競うことを実施し、単にスマホで「見る」から「発信する」スキルを指導していく。また SNS 側のアルゴリズムの仕組みは実際にビジネス発信をしている専門性をもった外部企業による特別講義内でワークとして取り入れていきたい。EC 業務でいえば、Google アナリティクス of WEB アクセス解析が必要であると認識し、2023 年には Google 社が GA4 にバージョンアップすることも念頭に入れて、3 年の「流通イノベーションゼミ」の授業内で専門的に EC の解析の方法を取り入れていく。また、「販売論」の授業の重要性は卒業生だけでなく、企業からも意見が出ており、担当の教員とも連携強化をして、検定に向けての学習や企業のニーズに合っているかなど、見直しをする必要がある。

2. 入学者受け入れ

「コミュニケーション」能力については「卒業生」「企業」双方のアンケートから多数出ており、重要である。個人スキルだけでは社会で通用しない点から、入試でも採点基準としてしっかり見ていきたい。同時に、コース学生でも常に考えている内容を「声を出す」ことで伝達し意見交換をすることは重要である。「プレゼミ」「流通イノベーションゼミ」「エディトリアル」などチームで活動することを重視していきたい。この点は授業だけでなく、研究室の助手からコース主任まで率先して心がけることで、全ての学校運営において、大学内の意思疎通の訓練に繋がると思う。

3. 今後の人材に必要なこと

数値分析能力と指摘があるが、2年「データサイエンス」を基本として、常日頃からデータを裏付けとして考えていく必要がある。コースのゼミの授業だけでなく、コース内必修科目の担当教員との連携を強化し、最終的には 4 年の「卒業論文」で結果を出すことを目標とする。また、コロナ以降、販売の接点が店舗だけでなくオンライン上のコミュニケーション能力の必要性を感じている。1 で述べたように、SNS で「発信する側」のスキルを 2 年 3 年ゼミの授業内で強化していきたい。また、アパレル業界でも、業務をメールでやり取りする時代から、スラックやチャットワークを使用してビジネス連絡をする企業が増えていることも知った。デジタル時代のコミュニケーションツールは日々進歩しており、教員が時代の転換を感じ取りながら、最新の IT 技術を学習する内容を検討する時期にきており、科目の選択や方法など検討をしていきたい。

4. その他

履修について、必修科目以外でどのような科目がコース内で必要なのかは、1 年次に情報共有しておき、4 年間の道筋を立てられやすいというアドバイスは、今後検討していきたい。

C 入学関係

入試広報課 部長 柴田 弘子

アパレルの人材育成に向けてどのような人材を受け入れるべきかの質問に対し、多くの方が協調性、コミュニケーション力、リーダーシップ力、発信力、忍耐力、発想力がある人材と答えています。

ただ、中には、突出した個性がなくても、センスや芸術性だけでなく、希望を持っている学生を積極的に受け入れて、学生生活の中で適正職種を判断していければよい。というご意見や、学びたいことが明確な人は、将来に向けて自分が必要な知識への吸収力が大きい。何事も自分の糧になると思って好奇心旺盛に仕事と向き合える人は強い。等々、卒業後実社会に出て様々な経験値の中から出た実感にあふれたご意見と思いました。

学生募集を担当する者としては、当然、様々な能力を持っている人に入学していただくのは好ましいとは思いますが、必ずしも持っていなくても、その素養を持っている人を多く受け入れ、大学生活の過程の中で成長していく人材を育てることで、大学の教育力、ブランド力が高まると思っていますので、受け入れ時点では、「ファッションに興味がある、或いは、好き」の気持ちだけでも良いと思っています。

受け入れる方策案の中に、「アパレル業界で起こりうる懸念を課題として出してどういう対策をとるのか聞く」というご意見がありました。課題として面白い(案)ので、選抜課題の一つに取り入れられればと思います。

グループ面接の実施については、現在、大学入学共通テスト以外の選抜試験の中では、個人面接を実施していますので、グループ面接を取り入れることができるか入試委員会で今後検討したいと思っています。

また、他方面への興味や関心を持つことで、今までなかった考えや発見が見つかる為、現在活躍している方の話を聞ける機会が豊富にあると良い。との意見については、今までもオープンキャンパスなどで卒業生や在校生をゲストに呼んで経験談を話す機会を設けていましたが、今後も引き続き実施いたします。

その他にもたくさんのご意見をいただきましたので、頂いたご意見を参考に今後の学生募集に活かしたいと思っています。